

12月6日 聖学院大学発表内容

皆さん、こんにちは。

東洋大学から来ました3年生の柴田南帆です。

今日は皆さんに私の今までのボランティア経験を生かして、すこしでも皆さんにプラスになるようなお話ができればと思っているのでどうぞよろしくお願い致します。

初めに今日の流れとしては、初めにそもそもボランティア活動ってどんなものなのか、次に今年私が実際に行った神楽ボランティアの経験についてお話をし、最後にまとめに移りたいなと考えております。

早速、皆さんボランティアと聞いてなにをイメージしますか??

おそらく皆さんこんなことを頭の中で考えたのではないのでしょうか。

皆さんが思いつくものは、「見返りを求めず無償で行う活動」や「強制ではなく自由にやりたい人が行う自発性」、「困っているひとを助ける活動」というイメージがあると思います。最近では熊本地震や東日本大震災での被災地での支援活動や駅前などで行っている様々な募金活動、またハロウィンの日の地域のゴミ拾いなどは、皆さん一度はボランティア活動を実際にみたり、テレビを通して目にしたりしていると思います。

ボランティア活動とはこれがボランティア活動だ!という決まりはなく、私は自主的に無償で行う活動はどんな形であれボランティアなのではないかなと考えています。

実際に私は中学生のころから子供が好きで小学生にレクを教えるボランティア活動を始めてから、これまで高校生の時は福祉の面からあしなが募金活動や視覚障害をお持ちの方々が出場する卓球大会の補助や精神障害や老人ホームでのイベントのお手伝いを行い、地域支援の面から各地域で行われているイベントのお手伝いや学校周りの清掃活動を行わせていただきました。

大学生になってからは中学卒業時に発生した東日本大震災の被災地での支援活動をずっとしたいと思っていたので、宮城県気仙沼での活動に力をいれて取り組んできました。いま紹介したようにボランティア活動には様々なものがあるのです。

ですがどうしてこのようなボランティア活動を行うのかというとやはりボランティアの力を欲している人々がいるということです。このようなボランティアを少しわかりやすいように枠組みを作りたいとおもいます。

皆さんもテレビを見ればわかるように、大きな地震が起こった際には家屋が倒壊したり、津波で様々なものが流されたりして生活をしていくためのものがな

くなってしまった方への物質支援であったり、倒壊した家屋を整理する瓦礫の撤去などすぐに周りのほかの地域からの支援を必要とする緊急性の高いボランティアがあります。この緊急性が高いボランティアにはほかにも高齢社会になり老人ホームや施設の利用者さんも多くなり一つ一つのイベントを行う際に人手が足りなくなることもあるようです。私が高校生の際は縁日で出店がいくつか出る夏祭りだったのですが職員さんは利用者さんについて回るのでいっぱいであったりして予定のお店に学生が入らないとイベントが開催できないような状況でした。このように一見すると緊急性の高いようには見えないかもしれませんが、外部の力を借りないと手が足りないという面で緊急性は高いと思います。

一方で、私は高校の部活のメンバーで浦和の市民活動サポートセンターのイベントで一つのブースを持ちバルーンアートを行うことができました。これは主催者さんにイベントに若い力がほしいというお願いがあって自分たちのブースを出すことになりました。これは先ほどの震災や老人ホームなどの活動に比べて、自分達が参加しなければイベントが開催できないという状況は低く緊急性は低いボランティアといえると思います。

またゴミ拾いなどはごみがあると人々は「汚くていやだなあ」「なんでゴミ箱に捨てないのだろう」と思うと思います。だけど、普段生活している中で道端に落ちている煙草を見ても手で取って捨てようとは思わないのではないかなあと思います。しかし、ゴミが落ちている町に住んでいても気持ちよくはないですよ？このようにゴミ拾いを絶対する必要はないけど地域美化のために行うのです。このボランティアも緊急性が低いものと考えられると思います。

またこの2つに分けてみると震災のボランティアや福祉の面での人手不足は皆さんニュース番組などで一回は聞いたことがあり、ボランティアの力が必要だなあということがわかると思いますが、地域のイベントのお手伝いやゴミ拾いなどはなかなかメディアに報じられることは少ないのでボランティアが必要だということとはなかなか感じづらいのではないかなとおもいます。こういった面で左側は明示的だけど右側のものは非明示的だと考えられます。これによって、ボランティアを知らない人たちには震災などのボランティアは知られる一方で、なかなか地域でのボランティアというものを知る機会がなく、人々にボランティアといったら震災などといったイメージが強くなってしまっているのではないかなと感じます。

皆さんには、せっかくボランティアについて学んでいるということなのでボランティアの幅の広さというもの今日感じてもらえればと思います。

それでは、次に私が今年の夏に行った神楽のボランティア活動についてお話を

したいと思います。

まず初めに、神楽とはどんなものなのか皆さん知っていますか？

神楽は日本の神道の神事において神に奉納するために奏でさせる歌舞であり、日本の神話の古事記や日本書紀を題材にした劇で言葉をほとんど使わずに面をかぶって演技をする。神楽は全国各地にあるようなのですが地域によって要素も様々でとてもバラエティーに富んだ民俗芸能のようです。

それでは、少し神楽の知識を入れたもらったところで神楽公演学生実行委員ボランティアの話をしていただきたいと思います。

そもそも神楽実行委員とはなにかといいますと、「楽しくてわかりやすい江戸里神楽公演」をテーマに掲げ活動しているボランティアによる組織であり、毎年1回さいたま芸術劇場（さいたま市中央区）で神楽公演の企画・運営を行っています。今年の活動は第9回で平成28年9月9日（金）にさいたま芸術劇場の小ホールで行いました。まず、実行委員がどんな風に形成されているかといいますと、基本となる学生スタッフ今年は東海大学、聖学院大学、湘北短大など様々な大学から合計30名近くの学生スタッフがいました。そして学生スタッフの補助をしてくださる20名近くのシニアスタッフの方々、公演開催にあたり力を貸してくださる協賛会社、そして最後に相模の里神楽を披露してくださる垣澤社中さん（厚木市酒井）の大きく分けて4つのグループで実行委員は構成されています。

この実行委員の1つ目の特徴として、毎回、その前の公演を経験している人がいない（例えば今回でいえば第8回の公演を経験した学生スタッフはいません。第8回公演では第7回公演を経験した人はいません。そのためここはこうすべきという毎回決まった形が存在しないため自分たちがやりたいように自由に活動することができます。一方で、学生スタッフは全員未知の世界に初挑戦ということになります。

また2つ目の特徴としては、この実行委員会では全員が初めて揃うのは公演日当日です。他大学の実行委員と公演前にあうことはありません。これは、直接会って行うMTGを行わないためです。MTGを行わないというのも第9回は学生スタッフの住んでいる地域がバラバラで交通費などの各々の負担を考えた際にできなかったのです。

では、どうしてMTGを行わず実行委員が成り立っているのかということについてお話していきたいと思います。

まず、実行委員の活動の流れは大きく分けて3つに分けられます。1つ目が公演前、2つ目が公演当日、3つ目が公演後です。初めに公演前に焦点を絞ってお話します。

初めはまず**実行委員会を集める**ところからはじまります。先ほど学生スタッフは以前経験した人はいないと行ったのですが、実行委員会で連絡窓口をされている方がいらっしやって、唯一この神楽公演を第1回から見てきています。その方の授業を受講されている学生に声をかけ「先生に声をかけられたからとりあえずやってみよう」という人や後からお話しするのですが動画作成など自分が学校で学んでいる分野を生かしたいという人や私を含めこれまでのボランティアでは経験したことない分野のボランティアに挑戦してみたいという人、また友達に誘われたためなど様々な理由をもってこのボランティアに参加しています。先ほどのMTGがないというのとそれぞれの紹介ルートで実行委員が集まる関係で「ここから第9回公演実行委員会スタートだ」というのがなくそれぞれ自由に実行委員会に入ることができます。その関係でここからは私が実行委員会に参加したところからのお話をしていきたいとおもいます。

それでは、実際に公演前の活動に焦点を絞って話したいと思います。私が声をかけていただいたのが春で5月あたりから公演準備に取り掛かりました。5月の時点で公演日が9月9日、出演団体は垣澤社中さんということは決まっていました。

そのため、そこからは9月に向けての準備をおこないます。その仕事の中身としては広報、パンフレット、技術関係、神楽奉納見学、最後に出演団体、副委員長・司会メンバーによる打ち合わせが公演前の主な作業となりました。広報はTwitter、web、Facebookを使って行いました。これはもちろん見に来てくださる方に向けて公演のお知らせをするものですが今回の実行委員ではミーティングを全員で行うことができなかつたのでそれぞれが別々に自分の与えられた仕事を行っていました。そのためそれぞれの進捗状況や行ったことはすべてネットを通して報告を行っていました。

次に技術関係です。これは誰にでもできるものではないので東海大学のこういったことを専門に学習している学生スタッフにお願いしました。今回のこの公演では外国人の方にも神楽を知ってもらおうと3か国語での神楽紹介動画、また外国人の方がご来場いただくということで舞台を楽しんでいただける用に舞台上ではどのようなシーンなのかわかるよう字幕を作りました。

次は、パンフレットです。パンフレットは今後に残るものなので時間をかけて作成します。

イラストやデザインを考えるとところから始まります。パンフレットの中には外国の方にも楽しんでいただけるよう英語、中国語、韓国語、フランス語、ベトナム語、マレーシア語、ウオルフ語（セネガル）など7カ国後の演目の翻訳を掲載しました。このような多カ国語での翻訳がされている公演プログラムを発行しているのは、おそらく日本でこの公演だけです。またこの翻訳も学生ス

スタッフが学校の知り合いなどに声をかけて自分たちで行いました。また、神楽をよく知っている方々のためにも出演者様のコラムや私たち学生が行っているボランティアについて知ってもらうためのコラムを掲載させていただきました。これは、出演団体の方々の名刺ともなるととても貴重なものです。

取材対応では、配布資料にあるように、実際に新聞社の方の取材を受け自分たちの活動をそのまま言葉にし、それが記事になることは宣伝にはなるのはもちろんのこと、自分たちにとってもなかなかできない素敵な経験をさせていただきました。それに合わせ、この公演を応援してくださっている県庁やさいたま市の職員の方々にもご挨拶をさせていただきました。大学生のうちから社会人の方々に名刺を渡し、挨拶をするというとても貴重な体験でした。

また、公演前にはボランティアする側が神楽のことや出演団体様のことを知っておく必要があるため、挨拶もかねて出演団体の方々との公演を見に行かせていただきました。ここでは初めて見る神楽でしたが実際に粗筋を読んで舞台を見ると内容もわかりやすくとてもおもしろいなと私自身も面白いなあと感じることができました。

そして、前日には実際に会場に行って出演者の方の舞台に必要なものの運搬や最終的な事前打ち合わせを副委員長と司会担当で打ち合わせを行いました。

こうしてやっと本番当日を迎えるまでに至ります。本番を迎えるまで実行委員メンバーと会わずに **Twitter** やラインでの情報交換は少し怖いものがありました。無事当日の朝を迎えました。当日の朝は 8 時に全員集合します。ここで当日のボランティアスタッフが初めて集まります。この実行委員会は、公演前から活動に参加する者もいれば当日だけ参加する者もいて、参加形態も自由です。それでは実際の活動の様子をお話しです。集合した後、各自の役職を確認しすぐに自分の仕事に取り掛かります。大きな仕事内容としては、受付周りや舞台とで分かれています。受付の周りでは会場のレイアウトから自分たちで行います。レイアウトが決まったらその後は受付でチケットの受け渡し、お客様の誘導、過去のパンフレットや出演団体様の物販の補助に移りました。ここではシニアスタッフの方々の補助もありスムーズに行うことが出来ました。一方で、シニアスタッフの方々に任せてしまうことが多く、トラブルがあったときに自分たちが対応しきれない点は正直もどかしさを感じました。こういった点で、学生スタッフだけで行うことは難しいですが、もう少しシニアスタッフさんとかかわりを持つ必要があったかなと感じました。シニアスタッフの方々は学生スタッフ以上に **MTG** を重ねていただいて、感謝です。ありがとうございます。次に舞台上でのお話です。舞台上では、字幕や **VTR** を作った東海大学の皆さんに舞台上のスクリーンの放映や、出演団体様の方から舞台上の人手が足りないという声が上がったため学生スタッフも黒子として当日の舞台でお手伝い

をさせていただきました。そして、舞台上では進行も学生が務めました。女優を目指していたり、舞台上での話が上手な人がいたり学生も自分がやりたいことに挑戦することができました。このように、この団体は自分がやりたいこと、得意なことに取り組めるボランティアとなっています。また、当日初めてスタッフが揃うという状況でしたが、スタッフ一人ひとりが自分のやるべきことやお客さんのことを考えて行動していたので最後までスムーズに運営を進めることが出来ました。当日初めてスタッフが全員揃っても、それがマイナスとはならないで、ボランティアをすることが初めての人でも本人のやる気と思いやりでやり遂げられることを改めて感じられました。

最後に公演後の取り組みです。公演後はほとんどのメンバーの活動は終了し、一部のメンバーで後処理を行います。後処理の内容としては、領収書の整理やアンケート集計、お礼状の送付、感想文集め、などがあります。

領収書は今回の活動 1 年間分の整理を行います。領収書整理をすることはお金のことになるのでとても大切なことだと思います。

アンケート集計は来場時アンケートを取らせていただいているのでその集計を行います。アンケートはお客様のホンネが聞けるものなのでより良い公演を目指すためにはとても重要なものになると考えています。今回の公演は外国の方には多くご来場いただいたもののほとんどがやはりお年を召した方で若い方の数が少なかったのでこれからの反省点になるかと思っています。

また、お礼状の送付というのはこの公演ではお客さんの多くの方に支援をさせていただいて成り立っているのです。そのため感謝の気持ちを込めて一枚一枚丁寧なお礼状を書かせていただいています。これは感謝の気持ちを伝えるのと同時にこれからもよろしく願いますという気持ちを込めて送らせていただいています。

そして、最後に感想文集めです。感想文は学生スタッフ、お客様、出演団体それぞれの立場でこの公演をどう感じたのかをまとめます。このように、さまざまな後処理を行うことによって、この公演が 1 回限りではなく今後につながるよう取り組んでいます。

以上述べたものが今回の活動の報告となります。

私はこれまで様々なボランティアに参加させていただきましたが、活動を通じて、新しく学ぶことがたくさんありました。

今回は、自分自身が興味のない神楽に触れられたこと、神楽を演じている方々にお会いできたことはとても有意義なものとなりました。神楽の面白さ、出演者様の神楽への思い、これからの目標を知ることができたのはこのボランティアに参加したからこそでした。またボランティアの仕方として、ロケイションフリーということがあげられます。今までは、学校が同じ人、地元が近

い人と行うボランティアが主でしたが、今回は様々な地域の人がそれぞれの場所で異なることに取り組むという流れでした。やっているときは不安がいっぱいでしたが最後までやりきることが出来ました。このやり方を行うためには SNS での連絡・報告は必至ですが、それが出来れば日本各地と取り組むこともできると思います。最後に、このボランティアは自分のやりたいことが出来るという意味では、他のボランティアに比べ縛りは緩いと思います。今回の学生メンバーでいえば、メディアに取り組む、司会に取り組む、企業訪問を行うなどそれぞれが興味のあることに積極的に取り組むことが出来ていました。このようなボランティアはあまりないのではないかと思います。このように、新たに学ぶものがたくさんありました。

最後にまとめさせていただきます。

初めに述べた今までのボランティアの枠組みとしてはとしては福祉・地域支援のようなものが多かったですが、ここに文化の面という新たな面があるということが言えると思います。やはり、ボランティアには様々な形があつていいのではないかと思います。今は何となくボランティアと言ったら災害支援等といったボランティアのイメージが世の中にできてしまっているように感じました。

次に、ボランティアにはだれでも参加することが出来、ボランティアに参加する目的は人それぞれでいいと思います。しかし、どんな目的であれ、ボランティアにやる気を持って行うことと、仲間やお客さんに対して思いやり・礼儀をしっかりとすることはどのボランティアを行うにしても大切だと思います。

最後に、ボランティア活動は、大変なことも多いかもしれませんが、その分やり切ったときの喜びや新たな世界との出会いやつながりなどとても得るものが多いと思います。ボランティアは、「相手のために何かしたい」「お客さんのために」という相手方の人にはもちろん、最終的には自分にプラスになることがあることがとても魅力的だと思います。

今回のボランティア活動ではたくさんの学びがありました。ぜひ第 9 回まで続いたこの公演をつなげてくれる方がいたらとてもうれしいです。

大学でも講義をさせていただけて、とても貴重な経験が出来ました。

ありがとうございました。

東洋大学 3年 柴田南帆